

第12回定期総会開催

活動方針可決承認される

室蘭地方腎友会の第12回総会が7月17日10時30分より、新装になった室蘭市障害者福祉総合センターで開催されました。

天候不順で7月としては肌寒い日でしたが会員や家族の方々の出席の中で、前年度の活動経過報告及び収支決算報告、更には63年度の活動方針案、予算案について活発に討議され、可決承認されました。



発行所
室蘭市東町2丁目1-9
室蘭市障害者総合福祉センター内
☎ (0143) 45-6849
室蘭地方腎友会
印刷所
室蘭 P R 印刷

平成元年1月10日現在
会員数 122名
透折患者 120名
腎移植者 2名
計 122名

割引き及び道内三ヶ所へ透折施設の設定に対する、署名、請願を行った事、腎疾患総合対策を主とする国会請願の署名、募金活動を行った事、等々が報告され、六十二年度の決算報告と共に承認されました。

六十三年度の活動方針については、例年通り腎バンク登録拡大キャンペーン、国会請願の署名、募金活動を柱として、全会員の更なる協力を求めながら、機関紙「希望」の発行、物品の販売、医療講演会等々を計画実行して行きたい旨の説明があり、六十三年度予算案と共に承認可決されました。

始めにこれ迄に亡くなられた会員の方々の冥福を祈り黙禱を捧げた後、議長及び書記が選出して議事が進行され、事務局長より、挨拶並びに前年度の活動経過報告がありました。

前年度の総会で決定された事ですが、各病院患者会が合同で行う予定だったレクリエーションはその後に行ったアンケートで合意が得られず、実施出来なかった事、機関紙「希望」の発行が出来ずにせつ々しく原稿を頂いた方々に申訳なかった事、腎バンク登録拡大全国一斉キャンペーンは例年通り行われたが患者自身の参加数が少なかった事、道議会へ内部障害者の運賃



会長 佐藤利國

腎疾患早期確立と献腎運動を

年頭にあたり

新年あけましておめでとうございませう。

会員の皆さん、お元気で新年を迎えられましたでしょうか。私はいつの年も新年を迎える度に元旦参りの際は「神様!! お願いします、どうか奇蹟が起きませうように!!」と祈ります。皆さんは如何でしょうか? 皆さんも毎日体重(水)との戦いでござ疲れているでしょう。

しかし負けてはなりません、この病気は精神力のみ、さあ/今年も負けずに頑張りましょう。

さて、月日の過つのは早いもので当腎友会も充足以来十三年目を迎えました。私たち腎友会は全腎協、道腎協の活動方針を基に、私たちの生活を守る為、また、腎疾患総合対策早期確立などの国会請願、献腎運動等の啓蒙活動など、幅広く活動してまいりました。こうした私

たちの運動は叙々にでも多くは実を結び現在私たちがどこにでも安心して透折治療を受けることが出来るようになりました。

この思恵は故人となった、また元気でいらっしゃる諸先輩の活動の積み重ねであり決して無にしてはいけない事実であり、努力の結晶です。

今私たちが置れている現状は何度も言ってますが、患者の増加と福祉政策のかけり

今年はその正念場の年と言ってよいと思います。活動の為の事務局も社会福祉事務所の中に設置が許可され活動の範囲も広がります。会員の皆さんも、自由に訪問できますし相談事など大いに利用して下さいませうお願い致します。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

の中で「危機と不安」の状態と言って加言ではありません。

私たちはこの現状を少しでも良くし維持していくために会員が一丸となって活動しなければなりません。

昭和三十三年度 役員名簿	
会 長	佐藤 利國 (兼道腎協運営委員)
副 会 長	水口 皎平 (兼事務局次長)
幹 事 (会計)	森 三枝子
幹 事	阿部 順子
幹 事	南屋 久恵
幹 事	鈴木 義勝
幹 事	佐藤 文俊
幹 事	岡本 晴雄
幹 事	水島 裕
幹 事	成田 雅則
幹 事	水島 裕

昭和六十三年度 道腎協第一回幹事会開催

道内十八ブロックから

三十余名が出席

道腎協主催による幹事会と医療講演会が去る十月二十九、三十日の両日開催されました。初日午後四時より、北海道クリスチャンセンターで幹事会が開かれ札幌をはじめ道内十八ブロックから総数三十余名が出席致しました。当会からは佐藤会長と合田事務局次長、鈴木幹事(新日鉄)の三名が参加致しました。

会議は冒頭岩崎会長のあいさつに始まり、広岡副会長の全腎協幹事会報告、さらに各ブロック報告、道腎協半年活動結果報告等が行なわれました。その中で岩崎会長から道との福祉予算の公聴会の結果が報告され席上、来期の予算は一律一〇%カットの予告があり、難病連の一部疾病患者に関しては公費から除外されるケースも辞さない状況にあるという、その内容はかなり厳しいものであったことが述べられました。広岡副会長からは J R 運賃割引の国会審議の結果と審議継続について報告があり結論が出るまでまだ時間が掛る様相であるとのことでした。

さらに全腎協は、今後の活動方針として会員の増員と結果を計り、今後いっそう厳しくなる福祉医療状況に対処していく旨の意向であることが報告されました。

次に各ブロックの活動報告の中で我々にとって最も大切である透析技術に関しては、道内は全体的に地域格差が大きいことが問題として取り上げられました。

稚内地方では透析医師が不在のまま治療が行われている現状、道南ブロックでは透析施設がなく、江差の患者が函館まで通院している状況また驚いたことに、釧路ブロックでは施設の不足に対して新設を拒否している自治体があるということとその現状はあきれるばかりであります。しかし反面札幌においては次々と施設が新設されベッドが余っている状



態で施設間の患者争奪戦まで起きているという誠に矛盾の外ならぬ状況でありこの現象は透析機器メーカーの営利営業にのせられた医師が多くなっていることが、原因としてあげられ本来の透析医療の根本を忘れた許し難い現象と云えます。こうした中で各ブロックの三割以上が施設の増設、ベッドの増床、設備の改善を行政に対して希望しており、道腎協も今後の活動方針の主目的としてその実態を調査し、把握して問題として、取り上げていく意向を示しました。また全腎協の活動方針である腎疾患総合対策など強力に押し進めることを強調していました。



参加した私達は福祉医療の厳しい状況に直面し我々の現状を反省し、今後の活動に生かしていかなければならないことを痛切に感じました。
翌三十日は、北海道教育会館で医療講演が行なわれ合併症である骨異常について札幌北クリスチャンセンターの今先生の講演と C A P D ニックの今先生の講演と C A P D についてテルモ社によるデモンストレーションがありました。特に注目するものはありませんでした。参加者は一四〇名でした。尚、内容をビデオに撮ってありますのでご希望の方は事務局まで申し出下さい。

にゆ一す
二ニュース

室蘭地方腎友会の事務局の設置について

当会の事務局は現在、事務局長の自宅に置かれており、患者活動の面で大変不都合でありましたが、

今度室蘭市福祉課のご好意により新設された、身体者福祉総合センター内に設置が許可されましたので、六十三年十二月十日付で会員の皆様に相談等があれば気軽に訪問下さいませようお待ちしております。

住所 室蘭市東町二丁目一
TEL 四五局六六一一
五六六三



カンパツテ

② 夢いす、三味線に希望の光を

（透析歴・五年）
新日鉄病院 佐藤 文 俊

「人工透析」その言葉を聞いた時、二〇才の人生に幕が降りた、そんな気がしました。

昭和五十八年当時、伊達日赤病院に通っていた私は帰り道に、自分の人生がこの先、絶望にな

ったなんて信じられない、信じたくない、そんな思いで赤いスカイラインのアクセルを力一杯踏み続けていたのです。

私は中学生の頃から、津軽三味線を習い、それを仕事として、生活していましたが、希望の光を与えてくれたのが、この津軽三味線でした。

病氣と闘い、続けながら、いわば健康な人達でさえ、浮き沈みの激しいこの世界で生きて行くのは大変な事です。

でもその時のショックから、また「夢を開いてくれたこの三筋の糸に、自分の人生を賭けよう」という決心しました。

昼は透析、夜はステージ（温泉街）透析のない日は地方巡業、稽古と修業を積み、暗れてその実力を発揮する時が来ました。

昭和六十二年五月三日、青森県弘前、市民会館、87 津軽三

味線全国大会でした。プロと呼ばれる人達の登壇門であるこの大会は、自分自身の腕をためす最大のものでした。

この日は、あいにくの雨でした。この雨が、弘前城下の桜を散らし、自分の気持ちもバラつかせていました。

三味線に必要な精神力、忍耐力が全ての世界、また職業と共に共通する事なのですが、毎日の、体調の違いがすべて不安をもたせる原因となりました。

いよいよ本番です。「出場番号7」「自分にラッキーな7にしよう」

その自己暗示をかけ弾き始めました。その時突然アークシメントです。

皮の上で糸を乗せている駒がこわれてしまい、音が出なくなりまし

た。



順番を変えてもらい「もうだめだ」そう思った途端、全身の力が抜け「どうでもいいや」という気持ちになり、すぐリラックスして自分でも信じてられないほど良く指が動き、バチがさばりました。

結果は三位となり、賞状と盾を載せました。帰りの船で賞状を何回もだしてニッコリしていたのを、覚えています。

今年、体調が悪く欠場しましたが、来年は優勝して日本一の金字塔をと意欲を燃やしています。

一度閉じかけた幕をまた開いてくれた津軽三味線に一層のみがきをかけ、今度は日本一への幕開けに、今本番のベルが鳴り始めました。

②

透析療法 あれこれ

バイカー・ボ 重曹透析療法による 無症状透析



行なわれるようになりました。この重曹透析療法は、酢酸透析療法に比べると透析中或いは、透析後の気分不快、疲労感、頭痛、嘔気、嘔吐、血圧低下などが非常に少なく、高齢者や心血管系の合併を有する人、糖尿病、肝障害を持つ人など、重曹透析療法によって、良好に行なわれるようになり、無症状透析として優れた価値を示しています。

透析原液の希釈水として用いられているのは、通常水道水ですが、最近の技術の進歩により、水道水の中の不純物を取り除いてしまう逆浸透圧装置、これは近頃問題となっているアルミニウムの除去に非常に優れており、よって水の純度も高くなり透析液の質も向上します。

もう一つ除水制御の付いた透析装置、これは透析者の除水量に合せて、機械をセットすると自動的に機械が除水コントロール出来るシステムになっています。

この除水制御の付いた透析装置と重曹透析療法と性能の良いダイアライザーを組み合わせる事により短時間透析も可能になって来ているのです。



初めて透析療法が行なわれた頃には、重曹をベースにした透析療法が試みられていましたが、透析液自体に変化をもたらしてしまうという欠点があり、代って酢酸をベースにした透析療法が用いられるようになり、これが急速に普及し、また様々な機器が開発されるようになりました。しかし、酢酸透析をしている透析者の中には、酢酸が生理的に合わないという人も出てくるようになりました。

そこで、より生理的な重曹が見直されるようになり、問題点を克服する事により重曹透析が

レクレーション 新日鉄病院—睦会

伊達市「弄月館」へ

恒例のレクレーションが去る十月二十三日(日)に行なわれました。

これは毎年患者さんが一番楽しみにしている行事の一つで親睦をかね実施されたものです。さて今年実施されたもので、どこに

たものかと悩んだ結果、あまり遠くなく、また近くもなく、と言う意見があり伊達市近郊にある弄月館に決定しました。

当日九時三〇分、病院裏に集合、今回は患者さんと家族の方合せて二〇名(内四名現地待ち合せ)と昨年に比べるといま一の盛り上りです。

全員揃ったところで(なんと皆んな生き生きした顔、気持はもう温泉なの?)各自、乗用車に分乗し出発……。心配されていた天気もまずまず、最高のレクレーション日和となりました。鼻唄まじりですまず一路伊達へ……。

今回お世話になる伊達市弄月館は、市民研修目的のため建てられ最近は一般の人にも開放されているとか(因みに弄月の「弄」とは辞書によると、遊ぶという

意味らしい)。

車は国道三十七号線を通り北稀府付近から右折し山道へと向う、ちょうど道立太陽の園へ行く途中にありました。

約四〇分程で現地に到着、早速降りて深呼吸、空気が実にうまい。前方に雄大に広がる太平洋、裏手に山々が連なりこの時期赤く燃える紅葉と緑色をした松とのコントラストが非常に美しく、またこれから到来する冬の淋びしさが複雑に感じられました。

ここで全員入館し座敷へ、ほど良くテーブルが並べられ、まず一休み、お茶を飲みながら幹事さんの挨拶と今日これからの日程を説明され、



十一時頃昼食。一時からゲームのち三時迄で自由時間とか、早速持ち込みの食べ物、飲み物が並べられ口にほうばる人、早やばやとひと汗流しに温泉に入る人と忙がしい。

また今日の楽しみは患者さんからの差し入れで石狩鍋がご馳走されるとか、毎年頭が下がります。(去年は味噌オデン、また来年に期待)ころ合いを見計ってか「石狩鍋できたヨ」の声最高のにおいがしてきた。各自うつつに盛られ、いただきまー



す。うまい、うまいの連発、食欲をさそってか、おかわりをす

る人もいました。

こうして患者同志、久しぶりに顔を合せ、しゃべる、食べるゲームすると、ただ飲み食いだけの感はありましたが、楽しそうにしている姿を見ると、また来年も、という気持ちになりました。

帰りは現地で解散、これから紅葉を見に行く家族もいるとか今回もそれなりの親睦がはかられ幹事も満足しています。

ご協力ありがとうございました。

第18次国会請願「腎疾患総合対策」の早期確立を要望する請願及び難病患者などの医療と生活の保障を要望する請願結果は以下の通です。

御協力誠にありがとうございました。

〈全 腎 協〉	
署名数	1, 286名
募金額	107, 736円
〈J P C〉	
署名数	638名
募金額	15, 758円



後記

厚生省は医療費抑制を最大の課題とし、医療費が高い市町村について「国保安定化計画」をた

てさせ、その努力が実を結ばない場合は、都道府県の補助金を削減するという厳しいもの、その考えられる患者の影響として保険料の引き上げ、患者負担の強化、入院制限等五項目があり一九九〇年度中には制度「改正」を進めている。(合田)